

梶原町社協だより

ゆすまいる



第 14 号

(平成 29 年 1 月)

目次

- 新年のご挨拶／ゆすはら複合福祉施設設立準備室より・・・1P
- 地域福祉活動計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・2P
- ちょっと聞いてや～ ～みんなに知っちゃいてもらいたい～・・・3～4P
- 笑顔つながれ!!輪ッハツハ～町内各種団体リレー～・・・・・・・・・・5P
- 輝く梶原人!み～つけたっ!・・・・・・・・・・・・・・・・・・6P
- 掲 示 板　　（ 障 が い 者 福 祉 大 会 の ご 案 内 ）

地域福祉計画と地域福祉活動計画

今年度、本会では梶原町保健福祉支援センターとの協力により地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に取り組んでおります。この計画は、町の施策や方向性を示す地域福祉計画（行政）と、地域の福祉活動を推進するための目標や具体的な事業の計画を示す地域福祉活動計画（社協）を一体的に策定するものです。

各地区での説明会の後、部落代表を通じて、地域の自慢や課題、そこに住む皆様の想いを書き出して見える化（ワークシート）していただきました。現在、ワークシートをご提出いただいた部落に、「現在と将来の地域の暮らし（支え合いや安心、安全、生きがい、心配事など）」を考える座談会の声かけをさせていただいております。

この座談会では、ワークシートをもとにして、地域の状況や課題、そこに住む皆様の想いを共有し、安心して暮らせる仕組みや不安の解消のためにできることなどを話し合います。お茶やお菓子をつまみながら気軽な雰囲気を進めていきたいと考えておりますので、できるだけ多くの方にご参加いただき、お声をお伺いしていきたいです。

座談会は次年度以降も継続して開催の声掛けをいたします。地域の暮らしの中での困りごとや頼ったり、頼られたり、地域的话题を気軽に出し合える場を作っていきたいと思っておりますので、地域からの開催のご希望があれば是非ご協力させていただきます。

これまでの座談会では、こんな事が話されました



茶や谷部落
地域の過疎化で以前のような賑わいをなくしている祭事(虫送り)を盛り上げるにはどうしたらいいか。

文丸部落
何かの時には、地区の皆が集まる集会所。老朽化してあちこち傷んでいるが、修繕も含めてどのように運用していこうか。



竹の藪部落
独居高齢者の粗大ゴミの収集について、地域でお手伝いできるように定例会でゴミの有無を確認し、あれば近所で対応していくことが決定！



梶原町社会福祉協議会
会長 矢野豪佑

明けましておめでとーございます。
皆様お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと
心からお慶び申し上げます。
今年は何年です。
大きく羽ばたく躍進の年で有りますように
皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年、四月に発生した熊本・大分地震をはじめ、夏には立て続けに台風に見舞われた北海道豪雨災害と岩手豪雨災害、そして十月に発生した鳥取県中部地震と、大きな災害が日本の各地で発生しました。幸い高知県では大きな災害は発生しませんが、ご承知の通り南海トラフを震源とする大規模地震は、近い将来必ず起こると言われており、いつ何時に起こるのかわからない状況にあります。

災害時には、地域の助け合い、支え合いの活動は欠かせません。梶原ではそういった地域で支え合う力は十分に備わっていると思いますが、いざという時にその住民力を発揮するには、日ごろからの地域のつながりが大切です。

今年度、行政の地域福祉計画の見直しに併せて、「住み慣れた地域で暮らし続けたい」という想いを支えるためには、何が大切なのか、地域の見守りや支え合いの活動をはじめ、地域活動を支えていくための指針と目標を定める地域福祉活動計画を策定中で、地域の皆様の声を聴かせていただきながら策定作業を続けており、年度末には策定の運びです。

地域の皆さんと共に、行政や関係機関の皆様と共に、「ゆすはららでは」の地域づくりに貢献して参る所存です。職員もなお一層地域に出向いて参りますので、皆様方からのご意見やご相談等、お気軽にお寄せいただければと存じます。



ゆすはら 複合福祉施設 設立準備室より お知らせ

視察研修の実施

山口県にあります社会福祉法人夢のみずうみ村が運営するデイサービス施設をはじめ、高知県内の6施設の視察研修を行いました。

内装をカフェスタイルにするなど雰囲気を重視した施設や、リハビリに重点をおいた取り組みを行っている施設など、ご利用される方々のニーズに応じて、それぞれのスタイルで独自性を発揮した取り組みが行われています。



▲ デイサービスこじやりのいち 外観



▲ デイサービスこじやりのいち 内装

夢のみずうみ村では、視察者の対応を施設ご利用者様が行うっており、施設のお話しに加え、ご利用者としての視点から、ざつくばらんにお話しを伺うことができました。(リハビリの一環として取り組まれているそうです。)約2時間におたりご案内をいただくなかで「ここには自分のエネルギーをぶつける場所がある」と、いきいきとお話しいただいたことがとても印象的でした。

できました。いずれのお話しの中にも共通して「自分が利用したい、家族に利用してもらいたい施設をつくる」という考え方があります。
国の定める介護保険法の第1条(目的)には、「(要介護者が)尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行う」と規定されており、基本はこの法律の目指す「自立」の実現にあり、それぞれの地域に応じた創意と工夫がなされています。

本法人におきましても、こうした研修と学習を重ねながら、本町の地域福祉の推進に向けて取り組んでいきたいと思っております。

【お問合せ】

社会福祉法人梶原町社会福祉協議会

施設設立準備室

(担当) 立道・山田

電話 0889-65-1236

FAX 0889-65-1237



ちょっと聞いてや〜 〜みんなに知っちゃいてもらいたい〜

助成金を活用して地域活動をさらに元気に!

町内で、配食や訪問、交流事業を行うボランティア団体 梶原町ボランティアよつば会(以下、「よつば会」)が、日ごろの活動が評価され、大同生命から助成金が贈られました。よつば会は助成金でエプロンと三角巾を購入し、これからの活動のPRにつなげたいと思っているそうです。梶原町社協では、助成金の情報を紹介させてもらっています。活動資金のことで悩まれている方はぜひ、ご相談ください。



梶原町ボランティアよつば会からひとこと



相互の交流を深めながら、支援を必要としている方々、又は待っている方々へ、こころを届けたいと思います。



みなさんも一緒に活動してみませんか!

赤い羽根共同募金 まごころ弁当 配食御礼



12月11日(日)各区で総勢 153名のボランティアが集まり、早朝から調理や配食を行いました。心より感謝申し上げます。各区で知恵を絞った特色のあるお弁当はいかがだったでしょうか?まごころ弁当実行委員会をはじめ、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

今年は569食
作って配食しました!

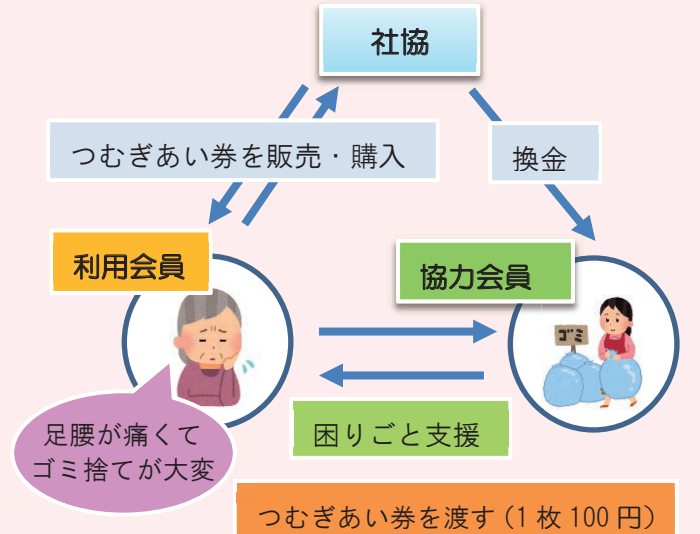


地域支えあい活動 つむぎあい

みなさん、地域支えあい活動「つむぎあい」を知っていますか。この活動は、つむぎあい券という地域通貨を使った有償ボランティアです。高齢化の進展に伴い、日常生活での困りごとが増えており、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくためにも、地域での支えあい活動が必要です。介護保険制度などのサービスのみで解決できない小さな困りごとを地域力で解決して、こうと平成19年より取り組まれてきました。

** 「つむぎあい」利用の流れ

会員は利用会員と協力会員です。利用会員は支援を希望する方でおおむね高齢者や障害のある方、協力会員はボランティアとして参加される方です。利用会員、協力会員両者の同意により決定されます。



「つむぎあい」について、さらに詳しく知りたい方はお気軽にお問合せください。
担当: 西村

法人後見事業

権利擁護について考えてみよう

今回は前回に引き続き権利擁護について事例を通して考えてみたいと思います。

年金生活のAさんは高齢で1人暮らしです。そのため贅沢をしないよう心掛けて生活をしていました。ある日いつものように病院からの帰り道に、訪問販売の営業マンから声をかけられました。「この布団、すごく体にいいですよ!」と、言葉巧みに勧誘され、なんと50万円もする羽毛布団を購入してしまいました。しばらく使用してみると、なんとなく朝すつきり起きられるようにな...。近所の方に話をすると、「Aさん、それ騙されているんじゃないの?」と、言われます。Aさんは少し心配になりましたが、それでも朝すつきり起きられているし...



どうでしょうか?皆さんは、Aさんが騙されていると思いますか、それ

れとも、本人がすつきりしているのだから騙されていない。と考えますか?難しいですよ、Aさんの話し方や、人により価値観も違いますし、これだけの情報では読んでいる人の捉え方も様々です。なにが正解なのかを誰が決めるのか?これは私が体験した事例で、内容は違えども、こういう手の話はよくあると思います。

権利擁護を考える場合、「本人と本人の生活」にしっかり焦点を当てることが大事だと思います。本人の思いや、生活の質を含めてその人らしい生活を考える。日々の生活で起こる出来事が、その人の生活にどのように影響するのかを十分に考えることが権利擁護の原点だと考えます。

2回にわたり「権利擁護」を考えてみましたがいかがでしたでしょうか?難しい言葉ですけど誰もが経験しうることだと思います。「これってどうなんだろう?」と、気になることがあれば社会福祉協議会にご相談ください。
へ芝田

輝く梶原人！み～つけたっ〇〇！

皆さんがひよっとしたら知らない、梶原で頑張っている人たちを紹介するコーナーです。



大向部落のゴミ捨て防止看板や、松原まつりにあわせて旧松原郵便局に描かれた松原の生き物の絵など、ステキな絵を描いて地域を盛り上げている吉村さんからお話を聞きました。



できることがあるかもしれない

ガラスの絵や看板は、局長や地域の方と相談して一緒に作っています。漫画を描くことはもともと趣味だったんですが、正直僕には、何ができるのか自分では分かりません。でも、何かお手伝いできることがあるかもしれないと思っているんですよ。「こんなことやりたいんですけど。」と聞かれたら、「あ、それやったことあるし、もしかしたらできるかも。」っていうのが結構あって、大向の看板のときもそんな感じで。頼まれたことなんですけど、やっぱり形になると感動があります。お手伝いできることがあるかもしれないので、まずは声をかけてもらったら嬉しいです。



地元のことを知りたい

みんなひとがいいし、本当に優しい土地柄だと思うんです。郵便局に来られるお客さんもあたたかいし、こんなおじいちゃんになれたらいいなあと思えるようなひとがいるんですよね。郵便局からつながりも広がってきて、地元なんですけど、意外と知らないことがたくさんあると思いました。それをこれから見つけていくことでもっと松原のことが好きになれるんじゃないかと思っています。まあ、まだそんなに考える余裕がないので、まずは余裕がもてるようになりたいですね(笑)

よしむらみみの 吉村文伸さん (35)

昭和56年生まれ。梶原町松原出身。高校まで地元で過ごし、卒業後はポリテクカレッジ高知に入学。情報について学ぶ中、京都で就職先を見つけ高知を出ることに。10年ほど過ごした後に、地元梶原にもどり、今は松原郵便局で臨時職員として勤める。

笑顔つながれ!!

輪ッハッハ

～町内各種団体紹介リレー～



前回の梶原町学校応援団の志手功さんにご紹介頂き、今回は **梶原町三障害者団体協議会会長 高橋 正知 さん** にインタビューしました。

梶原町三障害者団体協議会。愛称「三笑会」の会長である高橋さんのお話をお伺いしました。あらゆる団体に所属し、活躍される高橋さんの活動に対する思いとその行動力に心打たれました。今、地域の障害者団体が力を合わせて、梶原の将来について考え、行動を起こそうとしています！

中越(悠) よろしくお願ひします。まずは三障害者団体協議会のことについて教えてください。

中越(悠) 取り組みを続けていく上での目標や思いを教えてください。

高橋 第4期障害者福祉計画において、障害のある人もない人も互いが理解し、共に地域で暮らすには、障害者団体の主体的な活動を支援し、三障害者団体と行政とが懇談会を通して、情報の共有を図ろうという計画が示されました。それを受け、平成27年3月より、梶原町身体障害者連盟や梶原町精神障害者家族会、僕が会長を務める梶原町手をつなぐ親の会と行政、社協等が随時、協議を重ね、同年12月9日。規約を制定して三笑会を発足しました。

高橋 きっかけ作りが大事だと思っています。何かきっかけを作れば、興味のある人ってそれに乗ってきます。自分たちがその仕掛けをできるように頑張っていると思います。今、取り組みの中で今年3月に福祉大会を開催します。大会スローガンは「誰もが笑顔で暮らせるまち」で、「私の暮らし」と題した意見発表を3名ほどにしてもらい、他にも園児の合唱や福祉機器の展示、事業所による物品販売も行います。この大会では皆さんに障害者の暮らしを知ってほしい。みんなお互い助け合いながら生きているものだと思うんだよね。だから今までの気持ちを忘れず、手を取り合っけて梶原町で楽しく、誰もが笑顔で暮らせる町づくりがみんなできたら嬉しいなと思います。

活動内容は月に1度の定例会の実施。事業の準備、打ち合わせなどを行います。それ以外にいろいろな方向から、何か私たちにできることはないか考えながら、案が出たら実現に向けて頑張っています。

中越(悠) では最後にひとこと、お願いします。

中越(悠) 団体ができてどうでしたか？また、活動を取組まれてみてどうでしたか？

高橋 私は歌が好きで、梶原こども園やみどりの家、イベントなどでギターの弾き語りをさせてもらっています。そこじゃないと経験できないことっていっぱいありますし、私はそういうことをすごく大事にしたいです。ちなみに、三笑会会長、手をつなぐ親の会会長のほかに、日本ダウン症協会高知小鳩会支部の副支部長もやっています。名前ですが(笑)皆さんお気軽にお声がけください。いろんなところでつながりを広げることで、三笑会のことにもプラスになるんじゃないかなと思っています。

高橋 梶原町は人口が減少し、各障害者団体がそれぞれの活動しても限界があります。団体が協力し合えば考え方や人とのつながりも広がっていく。そうしたなかで一緒になって福祉について、生活について、どうしていったらいいか、考える機会ができたことは非常にいいと思います。知恵ってなかなか出てこないんでね。それぞれの団体が持っている情報ってあるじゃないですか。定例会ではその情報をお互いが話すなかで共有できます。別々に活動していたら、他の団体の情報は入ってこないんで。三障害の団体が一緒に活動することで、今までなかったことができるようになるのではないのでしょうか？

中越(悠) ありがとうございました！

次回は **梶原町連合青年団 二神貴登さん** です！お楽しみに！

掲 示 板

梶原町三笑会 障がい者福祉大会

だれもが笑顔で暮らせるまち

～障がい者の暮らしを語ろう～



たくさんの人に来てほしい

『誰もが笑顔で暮らせるまち』をテーマに、意見発表や
パネルディスカッションを通して、障がい者の暮らしを考えます。

平成 29 年 3 月 12 日 (日)

会場：ゆすはら・夢・未来館 2階大ホール

開場：13:00 開会：13:30

当日は

- * カレー、お菓子の販売
- * 車椅子など福祉機器の展示
も行う予定です。

だれでもご自由にご参加ください。

入場無料

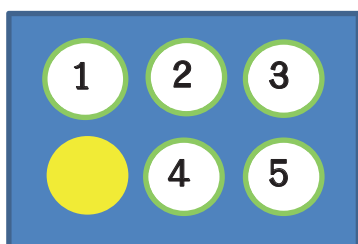
主催：梶原町三障害者団体協議会（略称：三笑会）

共催：梶原町・梶原町社会福祉協議会

協力：障害者支援施設 梶原みどりの家

NPO 法人竹ぼうきの会、その他近隣市町の事業所

表紙の写真について



- ① 上成のクリスマス会に参加した上田さんと西村さん
- ② 梶原竹ぼうきの会で作られたミニ門松
- ③ 松原健康づくり発信事業に参加したダブル久岡さん(笑)
- ④ 若いお母さんたちのクリスマス会
中岡さん親子&西村さん親子&中山さん親子
- ⑤ 梶原竹ぼうきの会で門松をつくっている様子

「ゆすまいる」では表紙に載せる写真を募集しています。最近みなさんから声をかけて頂けて嬉しいです、ありがとうございます。引き続き、構わない方は、出会った社協職員に声をかける、又は社協までお問い合わせください。 担当：宇賀・西村・中越（悠）

